

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 5月26日更新

事務事業名		優良家庭等表彰事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	健康福祉部	課長名	安武 祐次
	施策	15	健康づくりの推進					所属課	健康づくり推進課	担当者名	木永 和博
	基本事業	43	病気になる生活習慣の確立					所属班	国保年金班	(内線)	2163
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	合志市国民健康保険健康表彰規程 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果			
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・無受診世帯を表彰することによって健康意識の向上を図り医療費の削減につなげる。 ・平成12年度より実施。表彰することによって健康体である意識を向上させ、医療機関での受診を抑制するため。 ・旧町時代は健康福祉祭時に表彰状、記念品を贈呈していたが、その後は国保の世帯から代表者を決め、来庁していただき町長が直接贈呈し、また広報紙にも同意を得た方について名前と行政区を掲載していたが、役場に取りに来ることに消極的な意見があったため、平成18年度から宅配便にてカタログギフトに変えた。表彰状・記念品の宅配時期は11月～12月とし、10月1日時点で国保資格を有し、かつ前年度の国保税の滞納がない世帯を対象とする。
【業務の流れ】	①前年度医療機関の受診があるかどうかを調べる。②受診がなかった国保世帯に国保税の滞納がないか、介護サービスを受給されなかったかを調べる。③対象者に表彰状、記念品を贈る。
【主な予算費目】	08保健事業費 01保健衛生普及費 11需用費（消耗品費、印刷製本費）
【意見や要望】 関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	・市民から継続希望の意見を聞いている。 ・議会から無受診者数は健康に関心な人ともとれるので、無受診者を減らすことが健康づくりにつながるのではないか？という意見を聞いている。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) 11月に対象者262人に対し、表彰状及び記念品を一齐送付した。対象者全員に配布できた。		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 22年度と同じ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 送付国保世帯	世帯	対象世帯増のため
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
国保世帯	→ ア 国保世帯	世帯
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
健康体である意識を向上させ、医療機関受診を抑制するため。	→ ア 無受診世帯数	世帯
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 無受診世帯が増えることにより医療費削減に繋げる。		

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標		ア イ	世帯	156	163	200	262	300	300	300		
② 対象指標		ア イ	世帯	8,873	7,284	7,264	7,257	7,330	7,330	7,330		
③ 成果指標		ア イ	世帯	415	388	363	479	480	480	480		
投資 入費 量	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								(期間限定複数年度のみ記載)
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			繰入金	千円	390	491	700	785	1,050	1,050	1,050	
			一般財源	千円	100							
	人 件 費		(A) 事業費計	千円	490	491	700	785	1,050	1,050	1,050	
			(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
			(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
			正規職員従事人数	人	4	4	4	2	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	80	80	70	80	70	70	0		
		(B)人件費計	千円	320	318	278	329	288	288	0		
		トータルコスト(A)+(B)	千円	810	809	978	1,114	1,338	1,338	1,050		
												0

事務事業名	優良家庭等表彰事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-----------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 前年度並みは見込める。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 健康体である意識が薄れ、結果として受診が増えれば医療費に与える影響は大きい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 他には類似事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 表彰だけにとどめて記念品贈呈を止めることも不可能ではない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 今現在必要最低限で行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 国保加入者全員を対象としており公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 移行できない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

無受診世帯数は前年度より100世帯近く増加して479世帯となった。しかし、無受診世帯のうち半数近くの217世帯は滞納があり、表彰の対象とならなかった。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								